

春の種を下さずんば

秋の実りを如何に獲ん

弘法大師著 『秘蔵宝鑰』より

一座土砂加持法要勤修

暖かくなってきたかと思えば、氷点下に逆戻りと、なかなか暖かな春を落ち着いて感じられない毎日ではありますが、檀信徒の皆様方は如何お過ごしでしょうか。寒暖差や花粉の厳しい季節がまだまだ続くかと存じます。どうぞ皆様ご自愛ください。

私事ではありますが、先日有難いことに諸大徳の方にお誘いだいただき、神奈川県御尊坊にて「一座土砂加持法要」を勤修してまいりました。(下写真)

皆様にはあまりなじみがないかもしれませんが、真言宗にとって、「土砂」とは大変特別なもので、ありがたいものです。

深山幽谷の人が踏み入れている場所や清流の川砂を採取し、何度も繰り返し洗い清め、密教の作法に則り加持した砂が、真言宗における「土砂」であります。今はなくなりましたが、故人を納める棺は「座棺」が主流であり、棺の中で座るようにして納棺しておりました。そのため、死後硬直が進むと棺に納めるのも容易ではありません。そんなときに加持した土砂をご遺体にかけて、不思議と関節が柔らかくなり、無事納棺することが出来たそうです。

そんな不思議な力を持つ土砂ですが、人の罪を消すことが本来の力です。法要では、光明真言を百八遍唱えながら土砂を加持いたします。光明とは大如来様の光です。その光に照らされ

て罪穢れを滅すること
を「滅罪」といい、これが光明真言の功德であります。その功德を土砂一粒一粒にまで注ぎ込み、持たせることがこの法要の意義であります。

此度の土砂は、インドの尼連禅河(ナイランジヤ河)というお釈迦様が苦行のち、悟りを開かれる前に沐浴した河で採取した土砂であります。インドでは濁っている河が多い中、尼連禅河は透き通りサラサラと流れており、大変有難い河であります。縁あって私も一緒に加持させていただきました。当山ご本尊様にもお供えさせていただきました。ご本尊様を通して、この土砂の功德が、檀信徒の皆様にも少し届くよう、お祈りさせていただきます。



令和六年能登半島地震 支援金協力をお願い

令和六年一月一日に起こりました能登半島地震では、多くの方が亡くなり、被災されました。あらためて、亡くなられた方々の冥福をお祈りすると共に、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

この度の震災に対して、高野山真言宗では災害対策本部を設置し、救援・支援活動を行っております。その活動の一環として支援金のご協力をお願いしております。お寄せいただきました支援金は、被災地への義援金、並びに被災地復興支援活動へと充てられます。ご支援いただける方がいましたら、下記の振込先へご送金ください。

また、当山平福寺においても募金箱を設置しておりますので、直接お持ちいただいたりも大丈夫です。多くの方のご賛同、ご協力を宜しくお願いいたします。

・募集期間
令和六年

三月三十一日(日)まで

・募集方法

左記金融機関へ振込

「ゆうちょ銀行」

□座名義

「高野山真言宗災害義捐金

預り金部」

□座番号

〇〇九二〇一九一七五四一三

※通信欄に「令和六年能登半島地震」と明記ください。

※領収書をご希望の方は「領収書希望」と明記し、氏名・住所・電話番号をお忘れなくご記入ください。

・お問い合わせ先

高野山真言宗 災害対策本部

電話：〇七三六―五六―二〇一三

Fax：〇七三六―五六―二二二六

今回のお言葉

今月号のお言葉は、真言宗の開祖であり、高野山を開山された弘法大師空海和尚のお言葉です。

「春の種を下さずんば秋の実りを如何に獲ん」とは、「春に種を蒔かなければ秋に収穫をすることは出来ない」という意味です。

私はこの言葉の指す【種】とは、想いや気持ちだと考えております。美味しい物が食べたい、お金が欲しい、旅行に行きたい、そうした皆様の【想い・気持ち】が種であります。種は蒔いただけでは発芽しません。水を与え、雑草を刈り、丁寧に毎日管理することで、はじめて収穫に至るのです。

春は何かを始めるには良い季節かと存じます。これを機に、今まで諦めたり、押さえ込んでいたご自身の気持ちや想いと向き合い、また、それを是非行動に移してみるのも、よろしいのではないのでしょうか。

年間行事

- 一月 厄除け祈願大祭
- 三月 春季彼岸会・涅槃会
- 四月 研修旅行
- (阿字の子会主催)
- 五月 春季例祭・大般若会
- 七月 高野山参拝旅行
- 八月 夏季例祭・大施餓鬼会
- 九月 秋季彼岸会
- 十二月 二年参り

お知らせ

- ・墓地分譲中
- ・傳燈館予約受付中
- ※ホームページまたはお電話にて申し込みいただけます。
- ☎：〇二六三―七七一―四二二五

ホームページ

下のQRコードよりサイトに移動できます。※周りの方に広めて頂けたら幸いです。

